企画意図

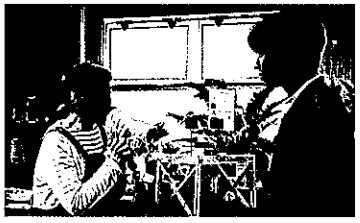
ー無自覚の差別「マイクロアグレッション」ー

「人権」は日常の何気ない人と人との関係性の中にもあります。しかしながら、普段そのことを当たり前のように理解しているつもりでも、家族や友人、同僚などの近く親しい関係性においては、相手を一人の人間として尊重する意識がおろそかになってしまうことがあります。

あからさまな差別表現でなくても、無自覚に相手の尊厳を傷つけている言動のことを指す「マイクロアグレッション（小さな攻撃性）」。その言動の背景には、国籍や人種、性別、性的指向など、特定の属性の人たちへの軽視や偏見が隠れていることがあります。

自覚なく加害者にならないために……。属性にとらわれずに、ありのままのその人と向き合うことの大切さを、このドラマでは描いています。職場や家庭内で「人権」について話し合うきっかけとしてお役立てください。

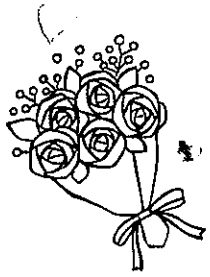
あらすじ



建築会社で働きながら、土日は両親が経営する花屋を手伝っている千花。ある休日、千花が配達から戻ると、千花の母親が、花束を買いに来た韓国人のミンジュンを接客していた。「日本語上手」「韓国人男性はロマンチスト」などの言葉に少し戸惑った様子を見せるミンジュン。千花は接客を替わり、丁寧にコミュニケーションをとりながら花束を作る。

別の日、新入社員の中川から結婚の報告を聞いて、驚く千花と同僚たち。先輩の岡部は、「若いのにもったいない」「焦る必要はない」とまくし立てる。その後、千花と二人きりになった中川は、心配で言ってくれていることとはいえ、いろいろな人に結婚報告をする度に「よく考えて」みたいに言われることが気になる、と複雑な心境を吐露する。

それからしばらくして、ミンジュンが再び来店し、千花に先日の花束の御礼を伝える。「日本人女性は優しい」「千花さんもそうでしょう」といったミンジュンの決めつけた言い方に、少しだけ困惑する千花。

また別の日、友人の市川が転職をしたと知り、会って話を聞いてみる千花。同性愛者の市川は、前の職場ではカミングアウトしていなかったため、「彼女いないの？」「結婚は？」という周りからの悪気ない言葉に毎回モヤモヤしていた。転職を機に、職場で性的指向のことをオープンにしているが、今度は「ゲイの人ってこうだよね」と決めつけられることがしばしばあり、返答に困ると話す。

そんなある日、「マイクロアグレッション」という言葉に出会った千花は、日頃感じていた様々な違和感がこの言葉に関係していると気づく。それと同時に、そういった言動を自分もしている可能性があると感じ、どうすればよいか考え始める。一方、語学学校のクラスメイトと話していたミンジュンも、これまでの自分の言動に決めつけがあったことに気づき……。